

SHIRAKOBATO

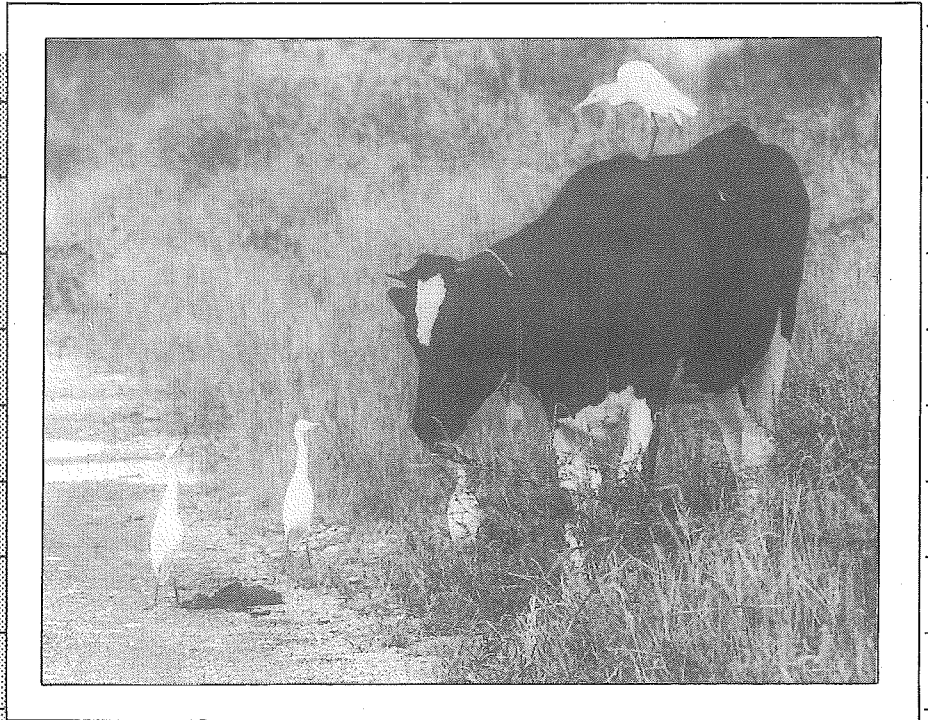
しらこぼと



1990. 9

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 76

日本野鳥の会 埼玉県支部

バードモデルの楽しみ

山岸昭治（秩父市）

ヒコーキからトリへ

私とバードカービングとの出会いは、7年ほど前にさかのぼります。当時私は「東京ソリッドモデルクラブ」の会員でした。この会は、ヒコーキの縮尺モデルを、木を削って作るアマチュア集団です。東京で、会員の親睦のため家族同伴のパーティーがあって出席しており、時間調整で立寄ったデパートの一角に「野鳥のカービング」のキットがありました。女房に「作ってやろうか」と言うと、「それならこれを」と指さされたのが、キビタキのキットでした。

帰宅後開けてみると、図面があって木を削るもの。作り方としてはヒコーキと同じだなと思いつつながら、わからないのは鳥！ それまで全く無縁の世界。とにかく図面通り削ってみました。何とも納得ゆかず。本屋さんに行って写真集やら図鑑を買い込みましたが、とにかくこれは実物を見なくてはと、我が家と隣家の間のわずかな場所に餌を置いて、スズメを待ちました。

幾日かして定期的集まってくるようになった10羽ほどのスズメを、埃を払った双眼鏡で観察。いずれも同じスズメと思っていたのが、良く見ると人間と同じ、器量の良いのや悪いのや、意地の悪そうな頭のそがれた形のもの等々。

ウンこれは面白いぞと、新品の双眼鏡を買い込み、それまで10年ほど続けていた羊山早朝散歩に、以来7年、夫婦で首に下げて、夏期は朝5時、冬期は6時から1時間、羊山探鳥散歩が続いています。



もっと早く会いたかった

野の鳥の躍動感あふれる姿を見るにつけ、なぜもっと早く鳥に出会えなかったのかと思うのです。16～17年前は、羊山ももっと静かで、秋、道を歩いていると栗の実の落ちる音が聞こえたり、カケスがすぐそばに群れていたし、犬を連れて歩くと、すぐ道端からキジが飛び出して驚かされたものでしたのに……

出会った鳥を削り続ける

しかし、私の短い探鳥期間にも、いろいろな鳥に出会うことができました。そのたびその鳥を削り続けました。

私の工作道具は数多くありません。15mm巾の平のみ1丁、切り出しナイフ1丁、印刀1丁、丸のみ2本、サンドペーパー、耐水ペーパー、アクリル絵の具、などです。

長瀬の県立自然史博物館には大変お世話になっています。作りたい鳥があると、先ず博物館でその固体の計測をさせていただきます。嘴の長さ、型体、裏側のへこみの形、翼長、三列・次列・初列の羽の巾、尾羽の形、脚の形、指の長さ、爪の長さなど、気のついた全てを図にとりて来ます。

私は秩父愛鳥会の会員でもあるのですが、会長の蔵書の清棲先生の日本鳥類大図鑑をお借りして、その鳥のデータを書き抜きます。

それからその鳥の載っている写真集を集め、その写真を原寸大に描きます。この作業は比例コンパス等を使う手もありますが、プロジェクトターを使うと楽です。

いろいろな形の原図ができましたら、それを自分のイメージにあわせて作図します。

その図面を角材に写し、側面形を彫り、平面形を切り出し、面を取り、羽を彫り出して行く、という作業が進みます。

カービングからバードモデルへ

元来バードカービングは、アメリカインディアンが狩りのおとりとしてガマなどで編んだのが進化してデコイになったもので、アメリカでは特に盛んで、コンテストなど数多く

行なわれているようです。あちらでは電動工具が盛んに用いられ、電気ペン？で羽を切り出し、実にリアルで見事な作品を作っているようです。

聞く処によると、木以外のものを使用して作品にした場合、減点の対象になるとか？そういうルールがあると聞きました。

私の場合、ヒコーキ作りから入ったものですから、そういう約束事は全く無く、リアル感を表現できそうな素材は何でも使っています。

例えば、アカショウビンの嘴は、木型を使って、塩化ビニール板を熱してしぼったものです。

話は少しそれますが、この鳥は特に思い入れの多い鳥です。1986年5月17日、私はこれに初めて出会えました。

その5日ほど前の早朝、羊山の上で、全く異なる2ヶ所、根古谷方面と田の沢方面で同時になく声を聞いていたのです。今年は逢えるかもしれない、そんな想いで、朝、犬を連れて裏の方に出ると、田の沢方面でキョロロという声。急いで家に帰り、双眼鏡を手に飛び出しました。そして出会ったのです。

その時の手帳を出してみると「◎アカショウビンを見る!!」と、ビックリマークがついています。「ハト位に見える。嘴真赤。背も非常に赤く見える……」。そして図が書いてあって、上を向いて嘴をあけている鳥が枝からダイブしています。

この年はこのあと2回見ることができました。浦山で見た時は周囲の状況も異り、褐色がちにくすんでいました。美の山でも会えました。前年お会いして感銘を受けた写真家の嶋田忠さんとのお約束で、'87池袋アートフォーラムでの嶋田さんの写真展のおり、9羽ほど出させていただき、私にとって大変楽しい思い出となっています。

素材に話を戻しますと、その後もアマサギの糞毛や、尾羽をひろげ、それを下から見ると光に羽の重なりがすけて見えるハヤブサなど、フィルム状ペーパーから1枚1枚羽を切り出し、それを貼って表現してみました。

オシドリでは流れるえりの毛、ピンと立っ



たイチョウ羽などにこれを使ってみました。

そこで私の作品では、敢えてバードカービングといわず、「バードモデル」と称して、独自のものを作りたいと思っています。

今私はクマタカを作っていますが、枝にとまっている姿で頭から尾まで65cm程あり、枝を掴んだ足は、爪もふくめて、大人の手を広げたほどになります。この冠毛もえりの羽も、ペーパーを使いたいと思っています。

以前日本放送で放映したクマタカのビデオを、連日スローで見たり、ストップをかけたたり眺めている私に向って、女房は、「そんな大きなものを作って、どこに置くの？」と言います。「置くところなど考えて作っているか。作りたいから作るのだ」と答えながら、内心今後は小さなものを作らないと家を追い出されるかなと思っているこの頃です。

もう浮気はしない

私は生来浮気者なのか、無器用なのか、20年間続けて情熱を燃やしていたヒコーキ作りをピタリと止めて、ヒコーキ仲間に作品の全て50機程を渡し、400冊程の本も全部貰っていただきました。

もうこれで、あとは鳥を削るより仕様がありません。

女房のリクエストによって。

(写真＝P2のアカショウビン、P3のアカゲラ＝は、山岸さんの作品です)

1990年春のシギ・チドリ類調査報告

去る4月29日、春のシギ・チドリ類県内一斉調査が行なわれた。この日埼玉県は、低気圧が北日本を通過した影響で未明より雨となったが、調査開始までには雨が上がり、晴れ間ののぞくまぎまぎの天気であった。調査は21名もの会員のご協力により行なわれ、その概況は表1のとおりである。

阪東大橋では、昨年に引き続きツバメチドリの渡来が確認された。明戸は他の調査地と比較して種数・個体数ともかなり少ない。秋ヶ瀬では、種数・個体数ともにこの4年間の調査で最多を記録した。昨年春の当調査の報告の際に、個体数の漸増傾向を指摘したが、今年の結果からもその傾向は示されている。また、今回はコシャクシギが記録されたが、これはたいへん稀な鳥である。オグロシギも県内では珍しい。

1982年から春と秋の個体数調査を行ってきた荒川中流の大麻生・明戸地区は、近年、道路橋やゴルフ場の建設など自然改変を大きく受け、シギ・チドリ類の個体数が著しく減少した(表2)。このため当地区が埼玉県内のシギ・チドリ類の重要飛来地としての意味が薄れ、継続して調査する理由がなくなった。このため、大麻生・明戸地区のシギ・チドリ

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

類調査を1990年春をもって中止する。なお、支部としては定例の大麻生探鳥会を通じて当地区の観察を継続する。

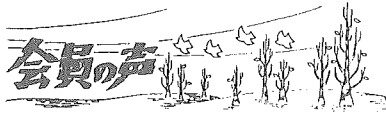
(執筆 榎本秀和、小荷田行男)

表1 1990年春のシギ・チドリ類の個体数

鳥種	地域 阪東大橋 利根川 (本庄市)	明戸 荒川 (川本町)	秋ヶ瀬 荒川 (浦和市 大宮市)	下広瀬 入間川 (狭山市)
タマシギ	—	—	2	—
コチドリ	3	—	1	4
イカルチドリ	2	—	—	—
シロチドリ	—	—	1	—
ムナグロ	—	—	624	—
キョウジョシギ	—	—	2	—
トウネン	—	—	1	—
ハマシギ	12	—	30	113
クサシギ	1	2	—	—
タカブシギ	—	—	16	—
キアシシギ	—	1	3	—
イソシギ	9	9	—	3
オグロシギ	—	—	1	—
チュウシャクシギ	—	—	8	—
コシャクシギ	—	—	1	—
タンシギ	1	—	11	2
ツバメチドリ	2	—	—	—
17種	7種	3種	13種	4種
個体数	30	12	701	122

表2 シギ・チドリ類一斉調査結果(大麻生・明戸地区) 1982年秋～1990年春

	コチ ドリ	イカル チドリ	シロ チドリ	ムナ グロ	キョウ ジョ シギ	トウ ネン	ハマ シギ	アオア シギ	クサ シギ	タカブ シギ	キアシ シギ	イソ シギ	タンシギ	アカエ リヒレ アシギ	個体数	種数
82	春	記録	ナシ	—	—	—	—	—	—	—	—	8	—	—	19	5
	秋	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	2	1
	春	2	4	5	—	—	39	—	—	—	2	—	—	—	53	6
	秋	3	4	—	—	—	—	—	1	—	1	3	—	—	18	6
83	春	2	2	4	—	—	—	—	—	—	—	7	—	—	13	3
	秋	2	6	—	—	—	—	—	5	—	1	13	1	—	28	6
84	春	記録	ナシ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	秋	—	45	—	—	—	—	—	1	7	—	30	10	—	93	5
	春	—	2	—	—	—	—	—	2	—	—	7	1	—	12	4
	秋	—	52	5	29	5	—	—	—	—	—	3	3	—	97	6
85	春	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—	—	3	1
	秋	—	38	—	—	—	—	—	—	—	—	26	1	—	77	5
86	春	記録	ナシ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	秋	*	*	*	*	*	*	*	—	—	—	*	*	—	*	9
87	春	—	10	—	47	6	—	—	1	—	—	3	—	—	67	5
	秋	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	5	3
	春	—	1	—	—	—	—	—	1	—	—	10	—	—	12	3
	秋	1	7	—	—	—	—	—	1	—	—	6	2	—	57	6
88	春	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7	—	—	7	1
	秋	5	—	1	—	—	—	—	1	—	—	8	—	1	17	6
89	春	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10	—	—	10	1
	秋	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
90	春	—	—	—	—	—	—	—	2	—	1	9	—	—	12	3



||||| ゴルフ場と国際空港 |||||

海老原美夫 (浦和市)

7月31日付の埼玉新聞によれば、畑和県知事は、県内のゴルフ場は、最終的には100カ所程度まで増える可能性があるとの見通しを示した。

3月1日現在の埼玉県内のゴルフ場の現況は次のとおり。

民間	既設営業中	59カ所	5,277 ha
	造成工事中	15カ所	1,866 ha
	事前審査中	11カ所	1,213 ha
	立地調整中	4カ所	494 ha
公営	既設営業中	3カ所	250 ha
	造成工事中	1カ所	55 ha
	計画中	1カ所	50 ha

合計94カ所、9,200 haに及ぶ。畑知事の言う100カ所というのが公営も含めているのかどうかはわからないが、含めているものとして計算すると、単純計算で100カ所は約9,800 ha。これは県の全面積の2.6%、浦和市の全面積の1.4倍にもなる。

多すぎる。

ゴルフ好きの畑知事の言う「緑と清流」の「緑」とは、ゴルフ場のことだと、どこかのスズメどもはさえずっているという。

ついでに言うと、畑知事は、渡良瀬遊水池に国際空港を建設するプランもうち出している。

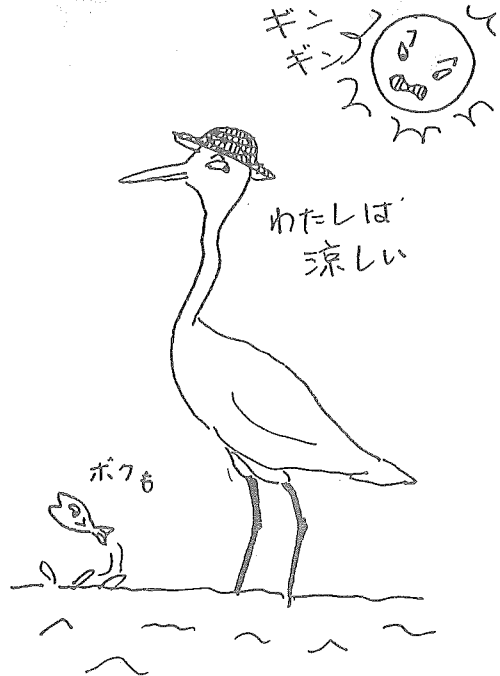
IWRB日本委員会の日本湿地目録1989に、「重要湿地」として掲載されている渡良瀬遊水池に、ナント……。

カモたちも抗議の声をあげるに違いない。



フクロウめはずむたのヒ...

(カット・黒田佳子)



(カット・押川歳子)

||||| 味にうるさいヒヨドリ君 |||||

角田真喜子 (浦和市)

ちょっとおもしろいヒヨドリに出会ったので、お知らせします。

7月10日の午後1時過ぎ、浦和のイトーヨーカドーの向かい側にある果物屋さんで買い物をしている時のことです。突然、バタバタという羽の音がして、1羽のヒヨドリが、ぶどうや桃などおいしいそうな果物の沢山並ぶお店に飛びこんできて、天井を飛びまわりはじめました。すると、お店のおかみさんが少しも慌てず「あのぶどうをあげよう」と、端の方に積んであったぶどうをバックごと、店の出口にあるブロックの塀の上に置いてあげたのです。ヒヨはどこにいったのかしら、と見ると、いつのまにか、向かい側の電線にとまってじっとこちらを見えています。おかみさんは「ヒヨは良く知っていて、一番おいしいところをねらうんだよ。こちらはちょっと古くなった安いのをすぐに出してやるけど、あんまり食べないのよ」とのこと。それにしても、果物屋さんのぶどうをおネダリするなんて、都市鳥ヒヨドリの厚かましさにはびっくりしました。



- サンカノゴイ ◇4月30日、戸田市道満で1羽(角田真喜子)。
- サギのコロニー ◇5月23日、越谷市恩間新田の農家北側にある竹林で規模は小さいが、コサギとゴイサギのコロニー(石川敏男)。
- アマサギ ◇5月12日、飯能市水田の田圃で1羽(松本 由)。
- オシドリ ◇5月11日、蓮田市黒浜沼畔で♂♀各1羽。その後南方向へ飛び去る(鈴木秀男)。◇5月29日、皆野町の親鼻橋下流で♀1羽と幼鳥7羽(山口輝雄)。◇6月3日午前11時30分頃、荒川村下日野地区の荒川河川敷で♀1羽、ひな10羽以上。大変すばやく草に隠れてしまったので短時間(2回)の観察だったが、カルガモやマガモのヒナと特に異なる点は見出せず、よく似ていた。ふ化後あまり日数のたたない小さなヒナに見えた。本流から少しはなれた脇の流れのなかを、下流に移動していた(海老原美夫)。
- マガモ ◇5月16日、飯能市永田で♂♀各1羽。田圃の中をガサガサ歩きまわっていた(松本 由)。
- カルガモ ◇6月11日、浦和市明花の見沼用水西べりで親子連れ1組、ヒナだけ1組(柴田良治)。
- シマアジ ◇5月7日、戸田市道満貯水池で♂♀各1羽(高橋達也)。
- オオタカ ◇5月21日、毛呂山町で成鳥1羽。鉄塔にとまる(市川計彦)。◇5月24日、本庄市の阪東大橋下流で1羽。カラスに追われる。その後、コアジサシのコロニー近くで、こんどはコアジサシに追い回される(井上幹男)。
- サシバ ◇6月2日、大宮市の見沼グリーンセンター付近で1羽(浅沼源太郎)。
- チョウゲンボウ ◇4月26日、東武伊勢崎線の利根川鉄橋付近で1羽(鈴木高士)。◇4月29日、岩槻市大戸で1羽(石川敏男)。◇6月1日、熊谷市三ヶ尻で上空を4羽が旋回、時々建て屋にとまる。親鳥と幼鳥を確認する(山口輝雄)。
- キジ ◇6月8日午前7時頃、本庄市の阪東大橋下流の土手で♂♀各1羽。仲良く追いかけてくをしていたのでベアリングが見られるかなとスタンバイ。遠くで「ケンケン」とライバルが鳴いたとたん♂はカーリングスばりに約100メートル位全速力で走っていった。彼は自分が飛べるのを忘れてしまったのかな(町田好一郎)。
- ヒクイナ ◇5月20日、岩槻市大戸のアシ原で1羽(石川敏男)。
- オオバン(繁殖) ◇6月23日、戸田市道満でヒナ4羽を引き連れて泳いでいる姿を確認。草の中を泳いでいたので4羽しか確認できなかった。まだいるかもしれません(駒崎政雄)。
- タマシギ ◇6月2日夜、春日部市の自宅前の水田から鳴き声(石川敏男)。
- ケリ ◇5月20日及び26日、岩槻市大戸の休耕田、アシ原、水田の混在地で1羽。飛んだ時の翼の白と黒及び背のうす茶色のパターンが鮮やか(石川敏男)。
- トウネン ◇5月3日、浦和市秋ヶ瀬の大久保農耕地で1羽(小林洋一、みどり)。
- ハマシギ ◇5月3日、浦和市の鴨川排水機場で約20羽(小林洋一、みどり)。
- アオアシシギ ◇5月11日、戸田市道満貯水池のわきで1羽(高橋達也)。◇5月15日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(井上幹男)。
- キアシシギ ◇5月24日、深谷市の上武大橋下流の中州で26羽(井上幹男)。
- チュウシャクシギ ◇5月20日、岩槻市大戸で5羽(石川敏男)。
- アカエリヒレアシシギ ◇5月3日、戸田市道満貯水池で夏羽の♀1羽。5月24日、同所で夏羽の♂♀各1羽(高橋達也)。
- アジサシ ◇5月10日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(井上幹男)。
- カッコウ ◇5月7日、戸田市道満で1羽(高橋達也)。◇5月12日、狭山市沢久保の自宅付近で鳴き声を聴く(三田長久)。
- ツツドリ ◇5月3日、飯能市小岩井で1羽(松本 由)。◇5月29日、秩父市の県民の森で1羽(鈴木暁子)。

ホトトギス ◇5月12日、所沢市北秋津で1羽(佐藤俊之)。◇5月21日午前0時36分及び29日午前1時50分、大宮市上小町の自宅南方の上空を鳴きながら飛んで行った。しみりとした初夏の夜のホトトギスが大好きです(鈴木高士)。◇5月29日、秩父市の県民の森で1羽(鈴木暁子)。◇5月29日、東秩父の白石峠で1羽(鈴木暁子)。◇5月29日、飯能市小岩井で1羽(松本由)。

アオバズク ◇5月11日、所沢市北秋津で1羽(佐藤方博)。◇5月21日、飯能市小岩井で、夜中鳴き出す(松本由)。◇6月10日午後9時頃、春日部市備後の須賀神社境内で2羽。松、樺、銀杏の高木が茂る所。樹上から周囲によく通る声でホウ、ホウ、ホウ…と連続して鳴いていた。鳴きやんだのでしばらく上空をうかがっていると音もなく樹間を移動する2羽の姿を目撃した(石川敏男、亮太)。◇6月11日午後11時10分～30分、浦和市中尾の自宅前の屋敷林で1羽。近辺を飛び廻り、遠く近く鳴く。一度、音もなく黒いシルエットが目前を飛んだ(草間和子)。◇6月11日、大宮市北袋町の景元寺で2羽。当地では2年ぶりの確認であった(浅沼源太郎)。

フクロウ ◇5月9日、飯能市で声を聞く(松本由)。

ヨタカ ◇5月14日午後11時、鴻巣市大間1丁目1丁目で1羽。鳴きながら飛び回る(榎本みち子)。

カワセミ ◇5月28日現在、戸田市道満で2ペアが営巣、育雛中(高橋達也)。

アオゲラ ◇5月5日、飯能市小岩井で1羽。ドラミングをしていた(松本由)。

ツバメ ◇5月8日、浦和市上野田の野田農

協前の民家の屋根にいたカラス1羽に5～6羽がモビング。飛び立ったカラスになお急降下攻撃をする(藤原寛治)。◇5月26日、本庄市の阪東大橋下流で1羽のツバメがモズを追いまわす。ツバメ強し(井上幹男)。◇5月26日、大宮商業で2羽のツバメがハシボソガラスにモビング(浅沼源太郎)。

トラツグミ ◇5月10日及び6月6日、飯能市小岩井で夜鳴き出す(松本由)。

アカハラ ◇5月3日、戸田市道満の釣堀付近の林で1羽(高橋達也)。

ツグミ ◇5月17日午後5時、自宅近くの家のアンテナにとまり鳴いていた。渡りの途中か?(田口浩司)。

メボソムシクイ ◇6月3日午前9時30分、狭山市駅付近の八幡神社で1羽。「チョチョリ、チョチョリ」とはぎれよく鳴く(三田長久)。

キビタキ ◇5月3日、戸田市道満の釣堀付近の林で♂♀各1羽(高橋達也)。

サンコウチョウ ◇5月21日、毛呂山町の物見山で♂3羽♀2羽。♀もよく「ホイホイホイ」と鳴いていた(市川計彦)。◇5月26日、北本市の自宅近くの公園でヒヨドリに追われて、黒く長い尾(30センチ以上ある)をひらひらさせながら飛ぶ。こんな所で見られるとは信じられない(立岩恒久)。

クロジ ◇5月3日、戸田市道満の釣堀付近の林で♂1羽。竹やぶより飛び出して、キビタキと同じ枝にとまる(高橋達也)。

コイカル ◇5月11日、戸田市道満グリーンパークの人工池横の林で♂1羽。きれいな声でさえずっていた(高橋達也)。

オナガ ◇6月2日、大宮市の見沼グリーンセンターでカラスにモビング(浅沼源太郎)。

表紙の写真

1989 バードフォトコンテスト人選作

アマサギ (サギ科)

河原の草の中に、いつも数頭の牛がつながれていて、そのまわりにはたくさんの虫が集まります。アマサギは、その虫が目当てです。お前どっから来たんだ。南の方さ。

南って、東南アジアだろ。

向こうでは、お前なんかよりずうっとずうっと角の長い、水牛の背中に乗って遊ぶのさ。

9月下旬 本庄市利根川の阪東大橋下流にて (林 滋・美里町)

行事あんない



神奈川県・多摩川河口探鳥会

期日：9月8日（土）

集合：午前9時45分 京浜急行大師線小島新田駅前。

交通：京浜急行線品川9:04発特急→京急川崎9:19着、大師線に乗り換え、9:29発→小島新田9:39着。

解散：午後2時ごろ。

担当：小林みどり、草間和子。

見どころ：干潟につどう渡り鳥たち。冬羽のシギ、チドリ、エクリプスのカモ、図鑑片手に悩んで楽しむ、初秋のTokyo Bay。

注意：日陰の少ない河原を歩きます。帽子、飲み物を必ずお持ち下さい。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：9月9日（日）

集合：午前9時20分 秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:00発、または秩父鉄道8:52発に乗車。

解散：午後1時ごろ。

担当：諏訪隆久、林滋、町田好一郎、逸見嶮、関口善孝、高橋夕香子、田口浩司、宮坂亨。

見どころ：季節の移りかわりを楽しむ。いつものまにか少なくなったササゴイやツバメ。吹きぬける風の思いがけない冷たさ。残暑の中を、秋が一步一步近づいてきます。

野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。

探鳥会に参加される場合、持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。参加費は、一般＝100円、会員及び中学生以下＝50円。受付は探鳥会当日です。特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。小雨決行です。

夢中になりすぎて、鳥を驚かしたり、植物を荒らしたりしないように。タバコの吸い殻やゴミを散らかすなんて事はもってのほか。いつもフィールドマナーをお忘れなく。

身支度ができたら、さあ出発！

秋のシギ・チドリ類県内一斉調査

期日：9月15日（土）

日本野鳥の会埼玉県支部では、春と秋の2回、独自にシギ・チドリ類の県内一斉調査を行なっています。特に下記の地点は、より多くの会員の参加をお願いしたい箇所です。

◇秋ヶ瀬（浦和市・大宮市）

集合：午前9時30分 大久保浄水場の北西角 近くの土手の上、水門のあたり。

担当：石井智、登坂久雄。

解散は昼近くになる予定。雨天決行です。調査ですので参加費はいりません。いつものしたくでお気軽どうぞ。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：9月16日（日）

集合：午前8時15分 北浦和駅東口または午前9時、浦和市立郷土博物館前。

解散：午後1時ごろ。

後援：浦和市立郷土博物館。

担当：楠見邦博、福井恒人、渡辺周司、手塚正義、伊藤芳晴、笠原伸子。

見どころ：三室の里に秋が来た。林縁に舞う小鳥の影はエゾビタキ？ それとも？ 芝川では、コガモ君と半年ぶりのご対面。道端の野菊も咲き始めています。

寄居町・鐘撞堂山探鳥会

期日：9月23日（日）

集合：午前9時 寄居駅北口

交通：東武東上線川越7：48発→小川町乗継ぎ→寄居8：49着／秩父鉄道熊谷8：25発→寄居8：52着

担当：林滋、小淵健二、町田好一郎、諏訪隆久

見どころ：タカの渡りの、身近な名所。秋の草花に彩られた山道をたどって、標高330mの頂上へ。見上げた青空には、南を目指すタカの群れ。低山ハイキングがお好きな方にもおすすめしたいコースです。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：9月29日（土）午後1時～3時ごろ

会場：支部事務局（浦和駅西口を出て左側、三菱信託銀行と日建ハウスの間に入って進み、信号ひとつ渡ってY字路の右、茶色5階建マンション1階＝徒歩5分）

案内：急募、『しらこぼと』発送手伝い。報酬は“満足感”だけなんですけれどー

野鳥写真クラブ定例会

とき：9月29日（土）午後3時ごろ～5時

会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

案内：フィルムに閉じこめたひと夏の思い出。秘密にするのもいいけれど、みんなに見せるもまた楽し。

川口市・差間探鳥会

期日：9月30日（日）

集合：午前9時 武蔵野線東浦和駅前

交通：武蔵野線北朝霞8：36発→武蔵浦和8：43→南浦和8：46→東浦和8：50着

解散：午後1時ごろ

担当：手塚正義、伊藤芳晴、渡辺敦、長谷部謙二

見どころ：旅の途中の鳥たち。ノビタキ、ツツドリに、サンバ、アマツバメ等々。ヒガンバナ咲き乱れる差間の秋を満喫しよう。

本庄市・阪東大橋探鳥会

期日：9月30日（日）

集合：午前9時 本庄駅北口（その後、現地

までバス利用）

交通：高崎線大宮7：42発→熊谷8：26→本庄8：49着

解散：午後1時ごろ

担当：町田好一郎、林滋、関口善孝

見どころ：広大な河原に小さな秋の使者。アオアシギの涼しげな声に誘われて、水辺を歩けば、群れ飛ぶショウドウツバメ、風にそよぐ草の穂にノビタキ。

タカの渡り調査

期日：9月30日（日）

恒例の調査です。一日、空を眺めているだけで、貴重なデータが集められます。ベテランの方も、初めての方も、お気軽にどうぞ。解散は昼過ぎの予定。雨天決行、参加費無料。

◇調査地点1 鐘撞堂山（寄居町）

集合：午前7時30分 秩父鉄道寄居駅北口（直接行かれる方は鐘撞堂山山頂）

担当：小淵健二

◇調査地点2 物見山（東松山市、鳩山町）

集合：午前7時30分 東武東上線高坂駅西口（直接行かれる方は物見山展望台）

担当：榎本秀和

◇調査地点3 高指山（日高町）

集合：午前7時 高指山NTTマイクロウェーブ中継局前

交通：西武池袋線高麗駅より高麗本郷、駒高を経て徒歩60分（5万分の1地形図「川越」参照）

担当：小荷田行男

◇調査地点4 天覧山（飯能市）

集合：午前9時から正午まで、ご都合のよい時間に山頂展望台へおいで下さい。

交通：西武池袋線飯能駅から徒歩30分

担当：海老原美夫

10月7日（日）北川辺町・渡良瀬探鳥会

10月10日（水）伊良湖岬探鳥会（予約募集中）
詳しくは「しらこぼと」8月号をご覧ください。

10月14日（日）熊谷市・大麻生探鳥会

10月21日（日）浦和市・三室地区探鳥会

10月28日（日）川越市・西川越探鳥会

行事報告

5月26日(土)『しらこぼと』袋づめの会

がんばってくれた人 岩波勇一、植村郁美、海老原教子、海老原美夫、遠藤薫、笠原伸子、角田真喜子、神場真文、草間和子、楠見文子、小荷田行男、高橋君子、登坂久雄、中村治、町田好一郎、吉原俊雄、渡辺安佐子、渡辺敦、渡辺孝章(19人)

5月26日(土) 写真クラブ定例会

集まった人 25人 **作品発表した人** 7人



ヤツガシラ (登坂久雄・八王子市)

5月27日(日) 上尾市 丸山公園

人 38人 **天気** 晴 **鳥** カルガモ コジュケイ キジ クイナ キジバト カッコウ カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ サンコウチョウ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス(23種) 雲一つない朝、探鳥会がスタート。カワセミをじっくり見ながら、野鳥の森へ。コツコツという音に上を見ると、コゲラが5羽。ここの探鳥会では初めてのサンコウチョウ♀と「2月のクイナ」が観察された。丸山は鳥色々。

6月2~3日(土、日) 長野県 戸隠・飯綱

高原

人 35人 **天気** 2日小雨、3日晴 **鳥** カイツブリ カルガモ ハチクマ トビ ノスリ キジ ジシギSP キジバト カッコウ ツツドリ ホトトギス ヨタカ ヒメアマツバメ アマツバメ アカショウビン アオゲラ アカゲラ コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ ビンズイ サンショウクイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ コマドリ コルリ マミジロ アカハラ ウグイス オオヨシキリ エゾムシクイ センダイムシクイ キクイタダキ キビタキ オオルリ コサメビタキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ メジロ ホオジロ ノジコ アオジ クロジカワラヒワ イカル ニュウナイスズメ スズメ コムクドリ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(60種) 憧れのアカショウビンに会ってきた! 朝3時に起きた甲斐があり、声を十分に楽しんだ後、姿もバッチリ。オオルリやキビタキ、キバシリやアカゲラ。そして、ノジコの囀る姿も。夜は、心尽くしの料理に、地酒の飲み放題、手打ちソバの食べ放題と、充実の探鳥ツアーだった。

6月9~10日(土、日) 栃木県 奥日光

人 22人 **天気** 9日雨、10日曇 **鳥** マガモ ヒドリガモ キンクロハジロ トビ ノスリ キジバト カッコウ ホトトギス アマツバメ アカゲラ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ キセキレイ モズ オオモズ カワガラス ミソサザイ コマドリ コルリ ノビタキ ヤブサメ ウグイス メボソムシクイ エゾムシクイ キビタキ オオルリ コサメビタキ エナガ コゲラ ヒガラ シジュウカラ ゴジュウカラ ホオアカ

アオジ カワラヒワ ウソ ニュウナイズメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (44種) 初日は湯ノ湖から光徳入口までのコースを取ったが、雨のためかほとんど鳥に会えなかった。2日目は、雨も上がり、湯滝から戦場ヶ原を赤沼まで歩いた。湯川沿いでは、川に潜るカワガラスや倒木でさえずるミソサザイを見られた。戦場ヶ原ではホオアカ、ノビタキ、ニュウナイズメを楽しみ、間もなく探鳥会も終りという地点で時期外れのオオモズの出現に皆びっくり。色々と意見の交換があったが、オオモズということで決まり。

6月10日(日) 熊谷市 大麻生

人 39人 天気 晴 鳥 カイツブリ ササゴイ ダイサギ コサギ カルガモ コジュケイ キジ バン イカルチドリ コアジサシ キジバト カッコウ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) 多くの鳥たちが、季節が夏になったことを教えてくれる。ササゴイが魚釣りの瞬間を見せてくれて、見ている方が緊張する。カッコウとオオヨシキリの鳴き声からドラマチックな自然の一端が想像できる。みんな大麻生の夏のひとこまだ。かすみ網の署名に協力をしてくださった皆さん、ありがとうございました。中でも熊谷市の菱沼さんは100人以上も職場で集めてくださいました。

6月17日(日) 浦和市 三室地区

人 51人 天気 晴 鳥 カイツブリ ゴイザギ コサギ カルガモ コチドリ イソシギ シラコバト キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) 暑いなか、田圃をコースに入れて歩いた。芝川では、カルガモの親子を2組観察できて楽しめた。

7月1日(日) 上尾市平方 八枝神社

人 5人 天気 曇 鳥 キジバト カッコウ アオバズク ツバメ ヒヨドリ オオヨシキリ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス (10種) 期待に胸をふくらませながら、第2団地バスセンターをスタート。あたりが薄暗くなる頃、神社に到着。鳥居を抜け、目の大きな木を見上げると、枝にアオバズク。動くまで待つこと1時間。そのころ、参加者が二人増えた。すると動き始め、数秒後に飛び立った。キラキラと光る目の夜の猛禽をじっくりと観察でき、久しぶりの感動を胸に、そうっと神社を後にした。

7月1日(日) 大滝村 三峰神社

人 27人 天気 小雨 鳥 アオバト コゲラ キセキレイ ミソサザイ コルリ ウグイス キビタキ エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (16種) 雨が降ったり止んだりのあいにくの天気。おまけに視界がほとんどなくて、声はすれども姿は見えない状態が続いた。それでもヤマガラを見つけてやっと探鳥会らしくなった。遠くのアオバトの鳴き声を聞き、山に来たんだと参加者みんな納得できた。残念ながらお目当てのキビタキは一部の人に囀りを聞かせてくれただけだった。

7月7日(土) 坂戸市 高麗川

人 39人 天気 曇 鳥 カイツブリ ゴイザギ コサギ カルガモ コジュケイ キジバン コチドリ イカルチドリ イソシギ キジバト カッコウ カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ コシアカツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス オオヨシキリ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 支部の探鳥会ではなかなか見られないコシアカツバメが登場。しかも、電線に止まっているのを全員でじっくり観察して勉強できた。今度コシアカツバメが現われても大丈夫です。



『野鳥』誌9月号はお休み

カラーページ増など内容を一層充実させるためにただいま準備中で、9・10月合併号として発行します。

ですから、8月末に出るはずの9月号はお休みです。

支部活動はボランティア

あんまりたびたび書きたくはないけれど、時々書いて、わかってもらわなければならない事です。

支部長・副支部長、監事・幹事・事務局・各部担当者・探鳥会リーダー、その他全員まったく無償のボランティアたちが、社会的になければならない活動であるという信念のもと、支部活動を懸命に支えています。

専従職員が1人もいない、全員手弁当の市民運動です。

どうぞあなたもご協力をお願いします。

カスミ網一般販売禁止署名運動

秩父愛鳥会(宮崎章次会長)から、1,170名分の署名が届けられました。ありがとうございました。支部に寄せられた分とあわせて、7月28日関東ブロック協議会の席上で、川崎副会長に手渡しました。

8月14日現在本部事務局に到着しているのは99,678名! 10万人の目標突破は確実です。

第4回「緑の国勢調査」

野鳥の会各支部の協力により5年に1度全国的に実施されている環境庁の自然環境保全基礎調査、今年度は集団繁殖地とねぐらに関するアンケート調査です。

『野鳥』誌9・10月合併号にアンケート用紙が綴じ込まれます。よろしく。

9月の土曜日当番(午後2時~6時)

- 9月1日 袋づめの会(1時から)
- 9月8日 石川敏男 高橋夕香子
- 9月15日 海老原美夫 山部直喜(編集会議)
- 9月22日 楠見邦博 長谷部謙二
- 9月29日 袋づめの会(1時から)

会員数は

8月1日現在1,436人です。

活動報告

- 6月9日 塚本本部専務理事来所。意見交換。
- 6月17日 役員会議(司会:小林みどり、カスミ網リーフレット印刷・カスミ網一般販売禁止県議会へ陳情書提出について・ネイチャーフォトコンテスト・総会準備など)。
- 6月24日 役員会議(司会:海老原美夫、平成2年度役員構成など)。
- 7月15日 役員会議(司会:町田好一郎、探鳥会予定・リーダー研修会など)。
- 7月25日 野鳥とふれあう学校連絡会議に出席(山部)。
- 7月28~29日 関東ブロック会議(吾妻支部担当)に出席(松井・海老原・林・町田)。
- 8月4日 普及部会議。
- 8月14日 埼玉新聞カスミ網の取材。



山部編集長多忙につき、代打・小林。ウッ、この重圧感はなんだ!?! 2日ほど悪夢にうなされ、ストレス解消に、つい、ビールに手がのびてしまう。……そうか! だから編集長はやせないのか! 納得。(小林みどり)

臨時編集長代理は、無事に編集作業を終ると、早速ビールを片手に、カンパイ、ご苦労さまでした。その割りに臨時代理のほうはふとらないですな。不思議。(海老原美夫)

『しらこぼと』1990年9月号(第76号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 鈴木忠雄 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL・FAX 048(832)4062

〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替東京9-121130

印刷 望月印刷株式会社

(本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)